



がんば

島原市立第三小学校
育友会報
発行部
広報部

【第103号】



(六年生の稲刈)

みのりの秋を迎えて

楽しかった

修学旅行

六年一組

松尾 扶充子

六年生の行事で最も大きな行事、修学旅行に行って、みんなといろんなことができて楽しかったし、また、いろんな所を見学してとても勉強になりました。

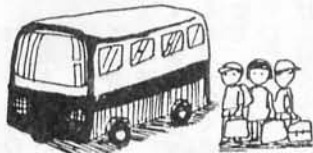
水辺動物園では、動物を見るよりも、ほとんど乗り物に乗って遊んでいました。みんなもそうだったと思います。遊ぶのにいっしょうけんめいで、集合の放送があったのも気づかないくらいでした。

二日めの民家村では、一学期に社会で学習した、たてあな住居の復元、また、国宝ともなっている立派な王冠や鏡などがありました。他に、刀や土器などもありました。むかしの家みたいな所に入ったらひき出しのついた階段がありました。むかしの人はいろんな生活の智慧で、すごいものを作っているの、とっても頭がいいなあと感心してしま

いました。むかしの人々のくらしの様子がよくわかったのでよかったです。

ホテルでは、みんな大きざわぎでした。あんまりおそく、他の組の部屋に遊びに行っておこられた人もいました。私達の班も、部屋に一人もいなくなるくらいに遊びに行ったりしていました。

プラネタリウムは、見ていて、なぜかおもしろくなりました。でも、上を見ると、きれいな星があって、それに説明が放送でながれていたの、
「どうしてこの星ができたか」
などがくわしくわかりました。たった一泊二日だったのでみじかかったです。でも、修学旅行があつてよかったです。この修学旅行は、私にとつてきつといい思い出になることでしょう。



一年生

社会科見学

一年一組

ひらの めぐみ

わたしは、しゃかいかけんがくでまちへいきました。そしたら、おうだんほどうきょうがありました。わたしは、はじめておうだんほどうきょうにのほりました。そしたら、人やくるまが小さく見えました。わたしは、びっくりしました。ほどうきょうは、とてもべんりです。しんごうが、あかにならなくてもわたれるからです。そして、アーケードや、こうつうのマークをたくさん見ました。とても、たのしかったです。

一年二組

むらた ゆい

しらこは、大きくてきれいでした。みずはとってもつめたかった。きたないときもあるが、やっぱりたいせつだとおもいました。

一年二組

もとむら さやか

おみせがたくさんあります。どうろには、たくさん

しるし(ひょうしき)があるなあとおもいました。

一年三組

まつだ さゆり

ほどうきょうをとったとき、たかかったよ。ふんすいがあがってたよ。けしきがきれかったよ。がちようがいたよ。いろんなすうばがあつたよ。きもちがよかつたよ。たのしかったです。

二年生

パン工場見学

二年三組

川ぞえともひこ

ぼくたちは、九月二十五日に、あつみパン工場のけん学にいきました。まず、パンのきじをこねるミキサーを見ました。つぎに、一こに切るきかいを見ました。パンの形を作って、はっこうしつに入れました。手を入れてみたら、とてもあつかつたです。それから、トンネルオープンでやきました。おじさんは、あつい手ぶくろをして、あせが出ていました。さいごに、パンをもらってかえりました。ぼくも、パンこう場ではたらいてみたいなと思いました。

二年四組 酒井太一

十月二十五日にあつみパン工場に行きました。れいきやくコンペアーでは、金あみのようなのでどうやってパンをひやすのかなと思いました。トンネルオープンでパンをつぎつぎにやいていました。あつそうだなと思いました。学校でパン工場の紙しばいを作りました。ぼくたちは、「かかりのしごと」をかきました。はつびようの時は、どきどきしました。教しつのかべにはついています。かまほこ工場見学にも早く行きたいな

三年生

撰果場見学

三年二組

相良 瞳

わたしは、せんか場があんなに広いとは思いませんでした。中に入ってみると、いろいなきかいがありました。ベルトコンペアーもいっぱいつかわれていました。運ぶのはせんぶベルトコンペアーでした。やっぱり人間がするより、ベルトコンペアーでしたほうが便利だなと思いました。

た。みかんの大きさを分けるのもきかいがしてました。ころがりながら出てくるところがおもしろかったです。さいごに、クラスごとに体重を計りました。

三年一組

吉武良太

みかんせんか場に行きました。いろいなきかいがありました。ベルトコンペアーやみかんの大きさを分けるきかい、はこを作るきかいです。べんりにできていました。みかんを一日に三千はこもつめていると聞いて、びっくりしました。

トラックごとみかんを計るきかいで、組ごとにみんなの体重を計りました。くらべたら、一組が一番かるくておかしかったです。帰りに、組ごとにみかんをもらいました。あまくておいしかったです。

楽しかった

社会科見学

四年一組

内田愛子

わたしたち四年生は、十月三日に長崎へ社会科見学に行

きました。わたしたちの組は一号車で、松尾さんというガイドさんでした。行きは、みんななかよくクイズや歌などで楽しくすごしました。

下水しり場は、だつ水ケーキを作る所が一番くさかつたです。でも、ごみしり場よりましでした。

次に、げんばくしりよう館に行きました。げんばくが落とされた時の長崎市とくらべると、今の長崎市はとってもゆたかです。わたしは、今生まれてしあわせだと思いました。平和公園には、はとがたくさんいました。おべんとうもおいしかったです。

さいごは、県庁に行きました。県庁は、めいろみたいに広くて、まいごにならないかなと心配でした。

帰りは、千々石の方を通りました。楽しくて、ためになるバス見学ができてよかつたなあとおもいました。



楽しかった

宿泊学習

五年三組

松本 佳奈子

私達は、十月二十・二十一日に諫早少年自然の家に行きました。入所式が終わり、ハイキングに出かけました。ハイキングでは、うぐいす谷コースと尾根歩きコースがあり、地図を見ながらみんなで協力し、どんどん進んで行きました。そして、三時ぐらいに宿泊所に着きました。

その夜は、天体観測でした。外へ出ると、空はプラネタリウムみたいでした。ベガやアルタイル、デネブの夏の大三角や人工衛星が見えました。流れ星は、三・四回流れました。私は、願いをしようと思っただけ、その時にはもうおそかったです。また、天体望遠鏡で土星を見ました。球とリングの間が見えました。とってもきれいでした。

その次の日のオリエンタリングでは、チェックポイントをたくさん見つけ、ママシも見つけ、二時半ぐらいに本館につき、バスで帰りました。とっても楽しい宿泊学習でした。

きつかった

鍛練遠足

六年四組

入江 香 織

十月二十七日、普賢岳に登りました。朝、五時半に起きて、車で焼山まで送ってもらいました。

七時三十分、いよいよ出発です。初めは階段ばかりでしたが、しだいに石がごろごろした道になり、きつくなってきました。スピードがだんだん落ち、とうとう最後の方になりました。わたしは、息が苦しくハアハア言っ、とてきつかったです。

やっぱり山道はきついなあと思いました。と中で何回帰ろうと思ったか、かぞえきれないほどでした。友達から何度もはげまされて、やっとのことで普賢池に着きました。あまりのうれしさに、おもわず泣いてしまいました。それに、行きがけにお母さんと、せつたいに登るからねというやくそくも守れました。

弁当とおかしを食べて、普賢岳の頂上まで行きました。高校生や保育園の人たちも来ていたので、あまりゆっくり

できませんでした。

そして、普賢池から焼山まで下りました。と中、すべりながらやつのことで焼山に着きました。

家に着いてまっ先に、お母さんに「頂上まで行ったよ。」と言うと、「よかったね。」と言ってくれました。きつかったけれど、頂上まで行けてとてもうれしかったです。

市内愛護・情障学級

合同運動会

に参加して

吉田 重 美

去る十月十二日に、市内愛護・情障学級合同運動会が催されました。前日の雨がうそのように晴れ渡り、暖かく、親子ともどもで体を動かしました。

小学校の運動会とは一味違った大会で、親子玉入れ、親子リレー、フオークダンスと子供達の笑顔、大人達の歓声が秋空に響き、とても楽しい一日でした。

また、忙しい中、校長先生、教育長さんをはじめ、多くの方々の御協力により、事故もなく無事終了しましたことを感謝致しております。



よい子のスナップ

史跡めぐり

教養部長

林田 信照

みなさんは、島原市内および周辺で、どのくらい史跡をごぞんじですか。「あまり知りません」。「以前行ったが、忘れてしまった」などさまざまでしょう。

さる十月二日、わが史跡めぐりの一行は朝九時に出発して、まず江東寺、ついで護国寺をまわりました。江東寺のねはん像横にある、板倉重昌の墓についての話は、はじめに聞くものでした。また、護国寺のおしょうさんからは、三十番神の話をお聞きしました。次に、葉草園、本光寺へとむかいました。本光寺は、最近建て直され、大変きれいになっていました。以前から、すばらしい多くの文化財があると聞いてはいましたが、じっくり見学したのは、今回が初めてでした。とてもすばらしいものでした。

町内訪問を終えて

生活部長 前田 清治

本年度町内訪問を、7月28日より5日間、16会場で行いました。校長先生をはじめ、先生方、育友会役員の皆様の御協力、本当にありがとうございました。そして、各町内の皆様には多数御出席いただき、貴重な御意見・要望等ありがとうございました。今後の学校運営・育友会活動に必ず役立てていきたいと思っております。それでは、主な御意見等を紹介いたします。

「明るいあいさつ」について。

- ・親が言うとするが、自分からはしない。
- ・学年が上がるとしなくなる。
- ・個々ではするが、集団でいる時にはしない。
- ・なるべく近所の子の名を覚えて声をかけるようにしている。

(家庭や町内ぐるみであいさつの習慣づけをしましょう)

「交通安全」について

- ・三小階段前の不法駐車で見通しが悪い。

- ・栄町古城付近の歩道など設備が不備である。
 - ・信号を守らない子どもがいる。
 - ・自転車点検日の登校が危険である。
 - ・西八幡内田自動車前の横断が危険。(横断歩道が新設されました。)
- (学校側へ交通環境の整備を強くお願いするとともに、交通安全に対する自己防衛教育を家庭でもお願いします。)

「ごぞんじですか？子どもの遊び場」について。

- ・物が豊富にありすぎて自分で作る意欲がない。
- ・子どもたちが遊び方を知らない。
- ・遊び場所が少なく、危険な駐車場で遊んでいる。(子どもたちが、どこで、何を遊んでいるか、親の目くばり・気くばりをお願いします。)

「その他」

- ・ラジオ体操について。
- ・球技大会のありかた。
- ・子どものこづかいについて。
- ・集団登校中に、上級生が下級生をいじめることがある。
- ・自転車点検の時に、新車をねだる。
- ・集団登校用の旗の新調の要望。
- ・育友会行事が多すぎる。

最後に、

どの町内でも『町内ぐるみで子どもを育てる。』の熱意を感じました。ただ、お父さん方の参加が少なかつたようです。より良い子ども、良い町内作りのため、父親パワーの結集をお願いします。

父 母 参 観

学級部長

内田 憲一郎

「運動神経がにぶかとは、お前に似とつとばいね」「私は体育は5やったとよ」「うちん子供はなして手ばあげんとかにや」あちこちで交されるお父さんとお母さんの会話。孫の成長ぶりに思わず目を細めるおじいちゃん・おばあちゃん。そんなほほえましい光



景の連続に、「明日の参観には来んでよかよ」と言いながら、当日親の姿を見て安心した、かつての自分を思い出し、思わず苦笑しました。

本年も昨年同様、日曜日の父母参観という事で、日頃学校には縁の無いお父さんの姿が目立ち、大変意義のあるものになったと思います。ただ、今回の父母参観は、昨年と違って学校行事として行なわれましたが、来年は育友会と共催ができれば、もっとよりよいものになるのではないかと思います。皆様本当に御苦労さまでした。

今も青春？

体育部副部長

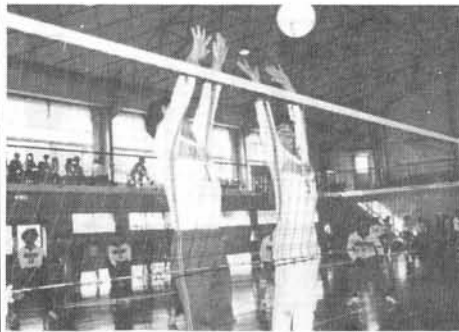
広瀬 誠 洋

秋晴れのもと、育友会町内対抗バレーボール大会が、十月二十九日(日曜)に開催され、各選手は先行する気持ちとは反対に、思う様に動かない体にムチ打って、まだまだ若いんだ!!と自分自身に言い聞かせながら、子供達、父兄のみなさんの暖かい声援を背に、すがすがしい汗を流し、「今も青春」である事を強く感じた?一日でした。

多数の方々との協力のもとに、無事終了する事が出来ました。本当にご苦労様でした。

〔成績発表〕

- Aクラス
- 1位 崩山A



- 2位 みなと
- 3位 湊町・三小職員
- Bクラス
- 1位 白山
- 2位 崩山B
- 3位 霊南・新山西
- Cクラス
- 1位 蛭子町
- 2位 新山二丁目
- 3位 栄町・浦田上

親子スポーツの日

第八回子供クラブ

町内相撲大会

に参加して

中道 真 澄

長い夏休みも終わり、子供達の気持ちも新たに二学期が始まりました。九月三日の大会優勝は、南下川尻育友会にとつては、とても嬉しい二連勝となりました。

毎日夕日が沈む頃まで、南下川尻公園の土俵にて練習を重ねました。六年生を中心として、日を追うごとに練習に参加する子供達も増え、お互い誘い合っけていかに望むようになりました。子供達の努力はもちろんですが、けいこに顔を見せて下さった育友会御父兄の方々、それと、我々育



友会の大先輩の熱心な御指導あつてこそその優勝だったと思えます。

大会当日の子供達の目の輝きは、今までの練習では見ることでもできなかった意欲満々のものでした。土俵下からの折るような声援にもよく答え、子供達はほんとうによく頑張りました。本番に強かった南下川尻の子供達に、心から拍手を送りたいと思えます。

この大会で得たみごとなたちムワークとねばり強さを、これからも發揮して、たくましく、たくましく育って欲しいと思います。

小さな思い出に

平野 義 信

ゲームセットの声で、「本当に勝ったと?」と半信半疑の



うれしそうな子供達の顔、してやったりのお母さん達の笑顔、これは、去る九月三日に行われた親子フットベースボール大会の優勝の瞬間であります。私も監督をしていたものの、他に強いチームもあり、まさか優勝するとは思っていませんでした。

勝因は?と聞かれれば、子供達のがんばりと若干残っているお母さん達のパワーだと思えます。

優勝カップを抱いて記念写真を撮っている時の子供の顔がとても印象的で、やれば出来るんだな、と感じているように思えました。

私も小学生の時、市内のソフボール大会で優勝したことがあり、今でもいい思い出として残っています。

子供達も、自分達が少しで

も上手になろうと、遊ばないで努力・練習した結果が優勝に結びついたので。

講演会を聞いて

坂本 スヨ

森岳公民館にて、「病む子・こもる子・暴れる子」のテーマで、山口剛先生の講演を聞かせていただきました。話の中心は、子どものストレスについてのことでした。

『成績にこだわる子どもはストレスがたまる。』勉強しなさい!』と言いつ過ぎないこと。ストレスがたまること、保存エネルギーを食いつぶす。登校拒否の話がたくさんある中で、学校に行きたくない理由には、①おもしろくない、②心身の疲労、③いやな授業がある、④試験がある、⑤何となく行きたくない、⑥心の混乱などがある。そういう子ども達を、受容してあげなければならぬ!』というような話を、たくさんさんのスライドを見ながら聞きました。

正直なところ、話の内容は私にはむずかしく、親は子供に毎日どう接したらよいか、教師はどうあらねばならないかという話でした。

読書感想文 発表会

十月二十一日、森岳公民館にて島原市読書感想文発表会が行なわれまして、本校からは、六名出場いたしました。

その結果、高学年の部において、四年四組小島慶子さんが最優秀賞、六年二組小島寛子さんが優秀賞を姉妹そろって受賞しました。その感想文を紹介いたします。

最優秀賞

「折りづるの少女」

四年四組

小島 慶子

この本を読みながら、私は春休みに広島に行った時のことを思い出しました。

何ごともなかったように、さくらの花がさき、はとが飛び、平和な広島町の町でした。

でも、平和公園の中の資料館に一步入ると、そこは、今まで私が見たこともない、まるで地ごくの絵の世界でした。

グニャグニャとけて曲がったガラスびん、背中に木切れがつきさったまま歩いていける人や、皮ふがペロンとむけてたれ下がった人の写真。私は気分が悪くなり、目をつぶると、お母さんが、「目をそらしちゃダメ、しっかり見なさい。これが戦争よ。」と言いました。

元安川の向こうには、建物の内側がふき飛んだ原爆ドームがありました。そこに私は、色とりどりの美しい折りづるにうもれた、とうを見つけた。その時の私は、折りづるの一片にこめられたいのりも知らずに、ただ「わあ、きれい。」とかけよりました。

この本を読むまで、折りづるのとうの上に建っている像が禎子さんだということも、折りづるのとうにこんなに悲しいお話があることも知らなかったのです。

昭和二十年八月、悪まのよいうな原爆が、世界で初めて広島に落とされました。建物は

火をふいて燃え、その場ですぐ死んだ人もたくさんいました。でも、本当の原爆のおそろしさは、爆発の時にばらまかれた放射能が、いつまでも害をあたえ続ける事でした。多くの人を苦しませ、命をうばい続けるのでした。

戦争が終って十年もすぎた時、明るく、元気だった禎子さんも放射能が原因で、「悪性急性心臓不全・白血病」という病気になりました。何も悪いことをしていない小さな女の子までまきこみ、死なせるのが戦争ですか。人と人が殺し合う戦争をなぜ大人はするのですか。

ある日、美しい折りづるがすっかり気に入った禎子さんは、「千羽折れば願いがかなう」と信じてつるを折り始めました。折りづるの数は千羽こえたのに、病気は悪くなるいっぽうでした。《千羽でだめなら二千羽》と悲しい決心をして、つるを折り続けた禎子さん。その願いはとうとうかなわず、わずか十二才と九ヶ月の短い一生を終えたのです。かわいそうで、なみだがあふれて、本の字がかすんで

見えました。私は、きつとたくさんの折りづるが、禎子さんを戦争のない天国に連れて行ったと思います。この禎子さんをモデルにして、戦争が二度と起きないように、という願いをこめて建てられたのが折りづるのとうでした。

禎子さん、くやしかったでしょう。もっともつと生きたかったでしょう。禎子さんが折れなかった二千羽のつるを私が折ります。一羽一羽に、平和への願いをこめて。

優秀賞

「緑のドクター」

六年二組

小島 寛子

だれもがわすれてはならない、昭和二十年の夏。そうです。太平洋戦争で、世界で初めて広島に「リトル・ボーイ」長崎に「ファット・マン」という原子爆弾が落とされた年です。長崎原爆記念日は、私のおたん生日と一緒に祝います。今年もまた「四十四年前のこ

の日、長崎は地ごくに落ちてしまった。今は平和でいいねえ。」という話になりました。記念日とおたん生日が重なるせいか、原爆に強い関心を持っていた私は、ある日、図書館で調べてみる事にしました。

広島に落とされた、たった一発の原爆で、人口約四十二万の広島市民のうち、死者が二十五万人にもなったという事は、私の想像をはるかにこえた数でした。その上、今もなお原爆による病気で苦しむ、なくなる人がいるのです。人間のばかな考えがひき起こす戦争で、被害にあうのは、人間や建物だけではありません。山や海、動物や草や木、花だってそうです。人間よりもはるかに長く生きている大木でさえも、たった一発の原爆のために傷つき、消えていくのです。ある本には、「原爆は、人間をその環境と共にほろぼした。」と書いてありました。やり場のない強いきようふ、悲しみ、いかりをだいでいる時、母が手にしていたのが、樹医の山野忠彦先生の事が書かれた「緑のドクター」でした。

「樹医」、初めて目にした言葉です。「樹医」とは、樹の医者を書きます。戦争や開発による、自然はかいで、傷ついた木にも病気を直す医者がいて当然と、日本で初めて樹医を名のったのが、山野忠彦先生です。やり切れない思いでいた時だけに、救われる思いで一氣に読み続けました。話もしない、表情も分からない木の事が、どうして先生には分かるのだろうかと思議でした。

「木も人間と同じだ」という信念を持つ先生だけに、助けを求める木のさげびや、ひめいが聞こえるのでしょうか。山や木が人と同じように、ゆがんだ顔で痛みをうったえるのでしょうか。戦争だけでなく、今、私達のまわりでは、いたる所で「開発」とか「近代化」と自然はかいが進んでいます。人間が目の便利さばかり考えて、植物や動物をむやみに傷つけ、殺していいはずはありません。他の生物の事も考えていくのが、人間の大きな義務だと思えます。山野先生のように、自分の一生をかける仕事を持つ事は、すばらしい事だと思います。「なっとくできない事

はどこまでも調べる」、「自分の信念をつらぬく」という山野先生の教えを忘れずに、自分のできる事から一つ一つやっつけていこうと思います。山野先生のていねいな診察と熱心な治りようで救われた木は数多く、そのうちの一つである広島島の被爆したエノキも、私達と共に二度と歴史の過ちをくり返さない事を、永く語り続けていく事でしょう。

南高のペスタロッチ



(近藤源三郎)

業した。卒業生二十五名のうち、南高出身が十名もいた。南高から師範に進む者は多かったが、こんなに多い学年も珍しかろう。

近藤は、明治十八年から湊町小学校に奉職し、二十六年校長になった。月俸十二円。二十七年七月、暴風雨襲来。県下一円を吹き荒らした台風は、特に南高に甚大な被害をもたらした。校舎は一瞬にして倒壊した。茫然自失。しかし、歎難に遭遇して奮い起つのが近藤の真骨頂。彼は、早速校舎再建に乗り出した。

父兄に対しては、教育の一刻もゆるがせにできない重要性を説き、一方、足繁く役場に通って費用の捻出を訴えた。その効あって、町民たちは校舎再建のためなら、過重の賦課もあえて厭わずと、積極的な協力を誓った。せっかく再建するからには、県下第一等のモデル・スクールにしようとして、競って寄付を申し出る町民が相次いだ。三十年、新校舎完成。県視学岡本利宗(南高出身)は、規模宏大、近代の様式の新校舎を視察して、「堅牢壯麗殆ど欠点なし」とその壮大さに目を見張った。次に、近藤は生徒の情操教

育の必要を痛感した。体操は、既に十九年から他校にさきかけて実施し、運動会も開いていたが、音楽だけは遅れていた。彼は、風琴の購入を思い立った。隣の大手小学校には、既に風琴が備えてあった。早速、購入のための寄付を募った。近藤の日頃の精励ぶりを認めている父兄は、快くこれに応じた。集まった金額は四五〇円。予想を大幅に上回る額に感謝して、風琴一台に加えて動物標本、亜鈴、幻燈器を購入した。児童の歓喜の声を聞いて、彼は満足した。

学校内の問題が一段落すると、近藤は目を外に向けた。湊町小は、既に多くの卒業生を送り出していたが、彼ら卒業生の地域における風評は、必ずしも芳しいものではなかった。さらにまた、家庭の都合で就学できなかった青年を見過ごすことは、彼の良心が許さなかつた。

当時、青年の気風は悪く、それが児童に好ましくならぬ影響を与えてもいた。近藤はこれを憂え、夜学会を設けて学業の補習をなし、学校に行けない子守りのために、子守教育を行うことにした。また、青年会を組織して矯

風会と名づけ、弊風の矯正につとめた。組織は次第に広がり、十五歳以上の青年が全員加入する湊町青年会へと発展し、教化の実があらがるようになった。

湊町小学校に奉職すること実に十七年。その間、近藤が湊町に印した足跡は大きい。生徒はもちろん、卒業生からも慈父のように慕われた。県は、三十二年・三十三年の二回にわたり、また南高来郡役所も金一封をおくって、その功を賞した。

「湊町の信用を受くるの厚きこと非常にして、其のなきことすることとして成らざることなく、経費のごときとして議会の協賛を与へざることなく、企画する事業また一として有志の賛同を得ざることなし」と言われるほど、町民の信望は絶大なるものがあった。

私心を捨て、ひたすら師道を歩く彼を、町民は期せずして「南高のペスタロッチ」と呼び、長く敬仰したという。「やるだけのことはやった」という満ち足りた思いで、近藤は明治三十四年、有家高等小学校長として東有家村へ向かった。

県教育センター所長

塚野克己

南高西有家町出身の近藤源三郎は、明治十六年、県師範学校の小学中等師範学科を卒

三小 あいの町・136町

若い栄町

栄 町

吉田 富久

栄町育友会は、三小育友会の中でも古く思われますが、西八幡町と分かれてまだ六年目です。四十三世帯、全児童五十六人と大世帯で、各行事をお世話する役員の方々は大変です。又、最近山手の方が新興住宅地になり、車の交通量も激しくなつて事故等も増えつつあります。

昨年、栄町に地主さんの援助及び地域の方々の御協力でグラウンドを整地する事ができ、さっそく夏休みに「デイキャンプ」を実施しました。午後一時より食事、レクレーションの準備、テント張り、レクレーションに運びましたが、夕食頃より風が吹いて、子供達が一番楽しみにしていた花火大会が予定通り出来ませんでした。

栄町の子供達は皆元気良く、少年ソフトボール、フットベイスボール、相撲大会等各行事に毎年良い成績を残しています。これも、良い指導者に恵まれているからです。問題点と言えば、育友会行事に親

の参加者が少ない事です。これからも、学校・地域・親が三位一体となつて子供を守り、益々栄える栄町育友会でありたいと思います。



住宅開発が進む栄町

崩山バレー頑張れ

崩 山

東 和 雅

白土湖・桜井寺この名称をあげると、ほとんどの方が崩山とピンときてくださると思います。

お糸の墓に行く途中の町内ですから、私達の小さい頃は、

昼間でも一人で通るのは怖い様な所でした。それが今では育友会も三十四世帯を抱えるまでになっております。

バレーが特に盛んな地域で、小・中学校育友会対抗バレー、町内対抗バレーと毎年輝かしい伝統を守り続けております。この伝統は、ハダカ電球を畑の中に自分達でつけて、二人・三人と集まって来ては、練習をされていた方々の基礎の上に、次々と積み重ねられたものと聞いております。

小学校育友会も、ほとんどが夫婦でできていて、十月は毎日の様に練習を和気あいあいと消化しました。これが、育友会の親睦に大いに役立っているのではないかと思っております。

崩山バレー頑張れ!!



歴史を語る桜井寺

元気いっぱい

坂下八幡

坂下八幡

大町 和子

私たちが坂下八幡町は、男子十二名、女子十名のこじんまりした町内です。児童数が少なく、思うように行事に参加できないという悩みがありますが、いざやろうという時には、すばらしい力を発揮してくれます。特に廃品回収時には、手も口もよくさばけること、本場に二十二名しかいないのかと疑いたくなります。それにも増して、お母さんパワーにも定評があります。

なにしる夏の球技大会は、特に男子は、単独で出場できるのは今年で最後、もちろん全員が選手で、父兄の応援も自然と熱がはいります。あんなり大声でハリキリすぎて、お父さん方から「少し離れる」と苦情がこが来たくらいです。

親も子も、こういうファイトあふれる明るい町内ですが、欲を言えば、お父さんの参加がもう少し欲しいなという気がします。少人数でも、みんなで力を合わせて、活気ある坂下八幡

親子クラブをめざしてがんばりたいと思います。



町内のシンボル八幡神社参道

編集後記

実りの秋、充実の秋「がんばり」の誌面からも子供達の生き生きとした学校生活の様子が伝わってきます。夏休みから閉鎖されてきた運動場も、もうすぐ立派に完成し、子供達の歓声が隔々まで響きわたる事でしょう。生活部の町内訪問御苦労さまでした。『町内ぐるみで子供を育てる』の熱意がすごかったそうです。様々な御意見が発言された様ですが、一つでも二つでも今後の育友会活動に役立つようにと願います。